

# アシックススポーツ工学研究所に行ってきました!

アシックスの創業者 鬼塚喜八郎が「のちにアシックスの宝となる」と、自ら設立に力を注いだというアシックススポーツ工学研究所。スポーツシューズ&ウエアの研究施設をたずねてお話を伺いました。



材料開発から構造設計、試作、評価、検証までを一貫して行う。アシックスのモノづくりへのこだわりとスピード感を、この研究所が支えている。

## トップアスリートをターゲットに、パフォーマンス重視のものづくりをされているのですか?

アシックスの原点は、1949年に鬼塚喜八郎が神戸で興した鬼塚商會にさかのぼります。まったくの素人だった鬼塚が、選手たちに意見を聞きながら研究・改良を重ねてつくったシューズが、アシックスの前身ブランド「オニツカタイガー」のはじまりです。オリンピックで「オニツカタイガー」のシューズを履いた選手たちが次々とメダルを獲得し、世界にその名を知らしめたという歴史があり、今も多くのトップアスリートのパフォーマンスを支えています。そればかりではなく、復刻したオニツカタイガー、アシックスタイガーなど、ファッションアイテムとして注目を集めているという一面もあります。

## 研究所では、どんなことを研究されているのですか?

陸上トラックから体育館まで、さまざまなスポーツの動きを評価できる環境を調べ、バイオメカニクス的手法で人間の身体や動きを分析して、そのデータをもとに材料や構造の研究を行っています。開発した材料や製品サンプルの分析評価まで一貫して行えるのが大きな強みであり、分析評価の方法や生産技術に関する研究にも取り組んでいます。たとえば新しいシューズソールを開発するとき、

自社内で独自に材料を開発することができ、すぐに構造を考えてサンプルをつくり、速やかに品質や性能の評価をすることができます。早く正解にたどり着き、効率的に量産化できるというわけです。

## なぜこのような大規模な研究施設が必要なのですか?

創業者の鬼塚は、スポーツシューズづくりにサイエンスの要素を取り入れた先駆者でもあり、この研究所も「のちにアシックスの宝となる」と、自ら設立に力を注ぎました。その言葉のとおり、この研究施設が存在が、アシックスの強いアドバンテージとなっています。「スポーツで培った知的技術により、質の高いライフスタイルを創造する」というのがアシックスのビジョンですが、それを具現化し、アスリートやスポーツ愛好者だけでなく、広く一般の人々のために役立つ製品づくりを目指すためになくてはならないのが、このスポーツ工学研究所なのです。



# SHOES

## PRODUCT



フットウェア機能研究部 部長 原野健一さん

## Q. 医療現場用シューズはどのようにして生まれたのでしょうか?

オリンピック選手やプロ野球選手のシューズに焦点があたりがちですが、そんな特別なシューズばかりをつくっているわけではありません。むしろ、広く一般に向けたシューズづくりにより多くの時間を費やしています。そしてさらに、その中で培ってきた技術や経験を生かし、スポーツの枠を超えたシューズの研究開発にも取り組むようになりました。そのひとつとして始まったのが、医療現場で働く人のためのシューズ開発です。立ちっぱなしで動き回っている看護師さんの足の負担を軽減し、滑って転倒するなどの事故を防ぎたいという思いを込めて、地道な研究開発を続けています。

## Q. 医療現場用のウエアを開発するうえで、こだわったポイントはどこですか?



脚上げ動作分析

まずジャケットについては、看護師さんの日常で何度も繰り返される、点滴の輸液バッグを持ち上げてスタンドに架けるという動作に着目。調べてみると腕をおよそ120度の角度で上げることがわかったので、その動きをよりスムーズにすることを目指しました。パンツについては、股の部分をおよそ120度の角度で上げておく動作を少なくして楽に屈めるカッティングを研究しました。また、動きやすいだけでなく「着たい」と思ってもらえるような美しさも両立させるところに力を入れています。

## Q. 医療現場用シューズの一番のポイントは?

滑りにくく足への負担が少ないソールの開発です。医療現場で働く人たちは、1日1万歩を歩くと言われていて、その足をサポートするため、世界で活躍する多くのアスリートを支えてきたスポーツシューズの技術を応用して、「歩きやすく、心地よく、足への負担が少ない」シューズの開発を目指しました。医療現場用としてのポイントは、ラクに歩行できる安定性と、濡れた床での歩行をサポートするグリップ性を重視したソール。材料も構造も自社で開発できるという強みを存分に生かした、医療現場用シューズができたと思っています。



どんな機能が必要かによってソールに使用する材料もさまざま。配合やパーツの組み合わせを検証しながらオリジナルのソールを開発していく。

## Q. 開発にあたって、大切にされたことは?

アシックスではシューズ開発において「クッション性」「安定性」「通気性」「フィット性」「軽量性」「グリップ性」「耐久性」「屈曲性」の8つの機能を重視しています。それらに加え、医療現場用シューズとして特に大切にしたのは「足の負担を軽減」する機能。さらに「脱ぎ履きやすさ」「履き心地」にも配慮しました。今後はさらに現場の声を集めて、医療現場特有のニーズにもっと応えていきたいと思ひますし、この経験を生かして、患者さん用のシューズにも挑戦していきたいと思っています。



NURSEWALKER®100 FMN100-01▶P30

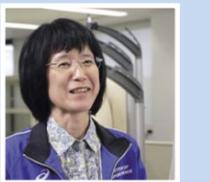


グリップ性評価試験



耐屈曲性評価試験

# WEAR



アパレル機能研究部 アパレル機能開発チーム アシスタントマネージャー 松本直子さん



アパレル機能研究部 アパレル機能開発チーム 古閑豊さん

## Q. 作る過程で苦労したことなどありましたか?

腕を上げやすく、脚を曲げやすくするだけなら難しくありません。動かす部分に布をたくさんとって、ふわっとゆとりをもたせれば、動きやすくなります。しかし、それではだぶついてシルエットが損なわれるし、布の分量が多い分重くもなります。見た目は細身の美しいナースウエアなのに、なぜか着心地がいい、動きやすい。そんなウエアをつくりたくて試行錯誤しました。

## そこにスポーツ工学研究所の研究成果が生かされているのですね。

身体の動きを妨げにくく、パフォーマンスをより向上させるといった、アスリート用ウエアのための機能カッティング技術を応用しています。この研究所では、パターン設計から裁断、縫製まですべてを行え、サンプルをつくって評価をすることができます。腕上げや脚上げの動作を分析する、光学式三次元動作分析装置なども駆使して改良を繰り返しながら、よりスムーズな動きを追求しています。ぜひ実際に着用して、これまでにない着心地を体感してみてください。

CHM052-0192 レディースジャケット(ホワイト×コーラルピンク)、CHM151-0101 レディースパンツ(ホワイト)▶P27